

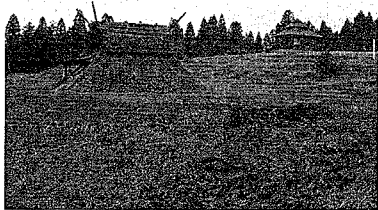


八幡山遺跡群

新津市の文化財(史跡)として指定されている八幡山遺跡群とは、埋葬地遺跡(縄文時代)、古津八幡山古墳(古墳時代)、八幡山遺跡(弥生時代)、古津初越A・B遺跡(奈良・平安時代)、大入(平安時代)などの遺跡からなる遺跡群です。

この八幡山遺跡群の中核となる八幡山遺跡は、全体が環濠を伴う城砦的集落で、遺跡の主要部は何重かの環濠と柵により防備され、住居址は数十基を越えるものと推定されています。さらに遺跡最上部(八幡山山頂部)には集落廃絶後に造営されたと思われる前方後方墳もあり、この遺跡は日本海側の最北限に位置する、全国屈指とも言える高地性集落跡です。

また県内最大規模を誇る古津八幡山古墳は、山稜北端の平野を見下ろす所に造営された古墳時代前期の古墳で、直径五六メートル、広い墳頂平坦面を持つ円錐形の大円墳(最近

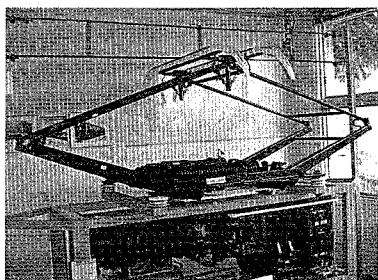


の研究によると「帆立貝式古墳」説が有力となっています)で、南面は現在でもその原形を良く止めています。

この古墳は八幡山遺跡の前方後方墳に後続するもので、同一部族の関連も強いと思われます。また、八幡山西麓平野部にある「古津舟戸遺跡」は八幡山高地性集落から降りてきた人々の末裔で、古津八幡山古墳を築いた人々の跡ではないかとも考えられています。

一方、八幡山山麓には多数の製鉄跡が分布し、浦原地方に鉄を供給していた一大生産基地と推定される、多くの古代製鉄跡がありました。

八幡山遺跡群は現在、遺跡公園として保存活用されており、一棟の復元竪穴住居と床面構造の模型などが作成され、屋外展示してあります。



鉄道

資料館だより

(19)



パンタグラフ

電気車の屋根上にひし形の格好をしているのがパンタグラフです。これは集電装置で上空の電車線から地上の電気車に電氣を受け入れる箇所、ひし形の枠組みは電車線から離れないように伸縮自在です。そして舟の形をした頂部の集電舟はすり板に取りつけられ、このすり板が電車線をこすって電氣を受けるようになっています。

写真は普通電車用のパンタグラフです。当資料館にはこの他にこれより小型の新幹線用のものもありますが、いずれも地上で目の当たりにすれば、予想外の大きさにアツと驚くかもしれません。

市民文芸

短歌

草取に疲れて早寝の老婆の軽き舁のなどいとはしき

年経たる椿の繁みに鳥遊ぶ苔むす庭に葩を散らして

俳句

昨夜の句が思ひだせず明易し

短夜や追伸ほどの夢残し

川柳

学帽が斜めになつて親離れ

偉大なる田舎に余るコシヒカリ

柴澤 壽榮(中野三)

石津 春子(草水町三)

新保しず(中村)

永井 秋美(中新田)

五十嵐了子(滝谷町)

昆 五三〇(七日町)